

アドリア海の真珠を訪ねて

写真・文 栃木県立小山高等学校 落合一憲



①スルジ山からの旧市街地の眺望



②城壁から大聖堂と旧市街地を臨む



③料理店からのスタラ湾旧港の眺め ④ピレ門上から臨む早朝の旧市街地 ⑤大火で消失した「石の門」にて ⑥ケーブルカー乗り場の雑貨店にて ⑦クロアチア国旗とEU旗

クロアチアの人口は428.5万（2012年）であり、福岡県（507.1万）よりも少なく、国土面積は5.7万km²で、九州より大きく北海道より小さい。国土は大きく二分することができ、一つは隣国ボスニア・ヘルツェゴビナと国境を分ける、ディナルアルプス山脈からアドリア海に面する海側の地域であり、もう一つはハンガリーやセルビアと接する、首都ザグレブ（写真⑤⑥⑦）の位置する内陸の地域である。気候もアドリア海側は、夏に高温で乾燥し冬に温暖な地中海性気候であり、内陸側は夏にも湿潤な西岸海洋性気候、そして寒暖の差が比較的大きい温暖湿潤気候となる。クロアチアから日本への輸出品としては、アドリア海の生簀で養殖されたクロマグロが知られており、対日総輸出額の81.5%を占める（2012年）。

2013年8月、スロベニアのカルスト地方からバスで国境をこえ、クロアチアへ入国した。ダルマチア地方の海洋都市として栄えたりエーカやシベニク、トロギル、スプリットなどの、世界文化遺産にも登録されている、独自の歴史をもった諸都市を訪れた。アドリア海を南部へ下るほど日ざしが勢いを増し、炎天下の史跡めぐりは汗が噴き出したが、大理石の街なみの日陰のテラスでは、海を渡る乾いたそよ風が心地よい。これらダルマチア地方の碧い海、そして白壁とオレンジの屋根瓦が織りなす光景は、宮崎駿監督にアニメ映画『紅の豚』を制作するインスピレーションを与えたといわれる。

ドゥブロヴニク（写真①②③④）はクロアチアの最南端に位置する都市で、正確には隣国ボスニア・ヘルツェゴビナの唯一の海港であるネウムを挟む飛び地となっている。かつてドゥブロヴニクはラグーサ共和国として海洋貿易で栄え、中世にはアマルフィやピサ、ジェノヴァ、ヴェネツィアなどとともに五つの海洋共和国に数えら

れた。早朝、まだ観光客が訪れる前に、アドリア海を渡るさわやかな風に吹かれながら、ドゥブロヴニク旧市街地を囲む城壁の上を一周した。イギリスの劇作家バーナード・ショーは1929年にこの地を訪れ「この世の天国が見たければ、ドゥブロヴニクにいかれよ。」と述べている。アドリア海の真珠とも讃えられる、朝日に輝く石畳や鐘楼の織りなす旧市街地の光景に、思わず息をのんだ。

2013年7月1日、旧ユーゴスラビアの内戦から約20年が経ち、クロアチアは念願のEU加盟を達成した。クロアチアの国民はかねてからヨーロッパの一員であるという意識がきわめて強く、これがEU加盟を進める原動力となった。日本のテレビでは当日のEU加盟を祝う国民の熱狂ぶりが映し出されたが、今回の訪問では、国民の盛り上がりを実感できる場面に遭遇することはなかった。クロアチアはEU加盟に伴いEU域内とは自由貿易が実現したが、従来主要輸出国であったほかの旧ユーゴ諸国であるボスニア・ヘルツェゴビナやセルビアなどのCEFTA（中欧自由貿易協定）諸国との自由貿易は失効した。また、クロアチアは観光立国であり、EU諸国との出入国審査が免除される効果は大きい。従来出入国審査が免除されていたロシアやトルコなどの一部の国とは、クロアチアのEU加盟により再び出入国審査が必要となった。この影響で2013年の夏にはロシアからの観光客が激減したといわれる。さらにクロアチア政府は国内の財政を、今後2年以内にEUの財政基準に適合させる義務を負うため、徴税の強化や付加価値税の増税を決定している。今後はユーロの導入が課題となるが、さらなる観光客の増加と、労働力そして市場としての発展が見込まれるクロアチアに、EU諸国は熱い視線を注いでいる。